

以下 汚れあり

以下 虫食い

破損あり



石院 21

東洋書院 蔵本

昔物語

M
5
(21)

井原屋録
昔物語

井原屋録

東洋書院

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42

以下 汚れあり

以下 虫食い

破損あり



以下 汚れあり

以下 虫食い

破損あり



古伝

東洋書院
蔵書印

古伝

M
5
(21)

昔物語

東洋書院蔵書印

学館

破損あり

裏写りあり



唐佳山昔物語

世のながき事どもを
 名も古名も其時を先
 記し唐佳山の傍中
 富士山は法皇の御
 近江國の膳吹山の
 つりまのまゝのまゝ
 唐佳山といふ所なり





人名

地名 三卷中ノ所

阿計徒磨 身長一丈三尺五寸

阿計留磨 身長一丈三尺

阿計志磨 身長一丈二尺

日高山 今云八首ノ八人の賊徒ノ遺跡ノ所

中津六郎

長面 阿計留阿計志と葬埋セリ名あり

公羽向 高倉長者あり

寺内 田村將軍阿計徒退伐ノ高王宮米籠あり

大長磨

菩提坂 大長阿計徒ノ首ヲ拵テ下念佛ト云下坂

駒籠野 墓

榎木坂 阿計徒磨ノ埋ノ所

幕洗 澤

目見堆

木戸津

切所キリノキタ平勢切ヒラセ

目高見山八面山古名

大兄津古名米津

小兄津古名釜津

三種川

扇ヶ籠

林崎村早坂村と云

歌橋の梅三つあし川の橋之梅と云

舞籠ノコエ貯籠ヒツ一名禪定ノ籠

禪定ノ籠と云善次と云

又梵字山興立記中人名地左の如し

秦除福幸胤能助菩薩四人從者

豊前公

源春阿波公

源義伊勢公

源覺大和公源海

開山圓靜

金剛界大日如来

五院祖師堂教學堂

大幢山梵字山

五大陸東光坊

孤月山常行寺月洞院里寺

小又口

見嶽山清岸寺月松院里寺

長面

獨鈷山常樂寺仙遊院里寺

遠子

荒原山源川寺 寂勝院里寺 小荒原

田城山蓮池寺 桂原院 佛華水 阿計徒丸 荒原

鬼面山真基寺 赤土院 阿計徒丸 荒原

慈眼山福壽寺 阿計徒丸 荒原

藏王社 中津又

八百山 穴子院 中津又

依鳳山瑞雲寺 磐陀社 八森

凌雲山東光院 八森

翁面山重樂寺 阿仁

多羅堆 金剛界 春妙集

久母山 攝待石地 阿仁

○房住山昔物語

出羽國山形郡大隆寺古記云保安む山下の老
當安寺事終夜大衆共遊此の物語
云傳聞く往昔より當安寺住山とい申せし
の頃妙何あるの開基といふ事と云ふ世俗の談
天台の山門来て此の山を開基せりそれより
號くとも坊の敷多く有る由也坊住山と唱
大施主高倉長者礎石材木米錢諸色皆
地長者一人の寄附しを相續て七八代を傳ふといふ
其東國の夷賊追伐の勅命あり坊上將軍田村磨
岩田國王下向給ふ前年佛必後年田村丸の由玉の
守事下り給ひて夷賊の首長と謀仕り短堂
此のりありて出り南法男藤山の孫孫で追伐
給ひし其着原こころも隠し其中心より
夷賊十人其中より名多えり兄弟三人あり兄の多と

阿計徒
阿計留凡
阿計志凡

日高山
中津六郎

阿計徒九其次阿計留凡其次阿計志凡と云り
此阿計留阿計志二人を長岡兄と申す也
そはていふ事一ツ其者の面の廣一尺三寸
額髪際より願髪まで二尺四五寸有し故也
中津六郎の阿計徒二人行方
をいふ阿計留阿計志二人日高山の間より出来
遊人と云ふ南の山間の狭き所中津六郎其の
狭き所をゆひ河を渡り侍御と云ふ人
之は遊來の後より將軍御勢ある追ひま
東より引包せしめあつたる中津六郎ありし
くくやあつたる無二世三世の淵の中へ入りし
ゆは確と雨の如く井とれ自らみ後より中津
北より其の一大は引上り男の錢の鎧二領を
ゆれ川より引上りしを若石の如く二年人
引包し都人をも思はせしめあつた一里中川下

長岡

下しける心もあつた川南の小島きあは
侍軍さきも情もあつた引道守後よりその
長岡と申すは又高倉長者田村將軍の
御下向より大なるおぼえありしを
阿計志凡都報小退左られ岩るに侍
山下遊休迎ける高倉倉春屋より侍
おて追回れし侍後出雲の邊に侍
くりし侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
らけし山と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
鬼我當山入り来りし侍と云ふ侍と云ふ侍
報と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
阿計志凡侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
山の隅に谷間に透りし侍と云ふ侍と云ふ侍
勢小股の侍と云ふ侍と云ふ侍と云ふ侍
を河より引上りし侍と云ふ侍と云ふ侍

宣德七根

あるは物と身とともめりて坊主の中より大刀を動かして
左方より首を切りつゝ、是の流し、其時鬼賊に
加護ありしと常感涙の流し、其時鬼賊に
計徒丸が面賜り、芝物花あし、一平、其時
一つもあつて、北方よりあつて、一平、其時
は、ひあつて、夜も明るみ及びぬれ、大将軍の
早脚か、ま、中上、大持、此に在り、其時
あ、事、あ、是、御陣、所、何、とて、宣
小、禮、拜、す、御陣、所、へ、向、り、後、は、つ、ま、を、そ、ま
あ、あ、と、あ、り、れ、は、皆、甲、山、の、大、衆、と、も、い、れ、人、又、あ、り、
向、計、徒、丸、頭、を、目、道、へ、向、き、ま、り、大、持、の、
東、高、根、を、登、り、後、は、向、き、ま、り、大、持、の、
左、右、を、ま、り、中、上、の、鬼、賊、の、首、を、丹、を、引、得、り、
と、ま、り、向、計、徒、丸、へ、計、る、は、計、る、は、引、得、り、
頭、上、は、角、生、ま、り、二、目、も、見、れ、は、二、目、も、引、得、り、
あり、ま、り、此、の、引、得、り、實、徳、長、根、と、い、は、り、

善提板
踏鞠臺
朽木段
幕後陣
目見堆
木戸條
切御作平

此御引得り終て、實徳長根より其首を下り、大衆
異口同音、念無と唱へ、其山は、善提板と
其首、東の尾崎踏鞠の臺に、埋ま、り、三、根、の
樹、が、木、の、根、を、給、り、其、時、陣、幕、の、血、を、撒、れ、る、は、其
と、見、(酒、を、給、り、ま、り、幕、後、に、向、り、と、い、は、り、後、大、衆
僧、俗、も、御、見、に、向、り、陣、前、に、布、し、此、を、其、時、
見、ら、れ、と、い、は、り、極、て、賊、徒、東、より、来、り、と、い、は、り、要、害、を、
ほ、り、木、戸、の、條、に、在、り、と、い、は、り、木、戸、地、作、と、い、は、り、聖
日、東、の、高、根、宣、徳、長、根、の、山、に、在、り、最、上、の、高、き、を、
利、願、の、實、徳、の、山、羽、黒、三、所、へ、奉、解、す、五、ヶ、山、上、の、大、衆、
實、徳、の、首、を、給、り、れ、其、身、不、淨、な、り、と、い、は、り、山、伏、あ、り、
其、時、給、り、其、時、事、官、あり、假、屋、を、差、越、て、幣、帛、を、
五、三、ヶ、切、り、給、り、其、所、に、切、り、給、り、と、い、は、り、又、軍、陣、の、
中、に、在、り、牛、頭、天、王、と、い、は、り、其、時、給、り、と、い、は、り、
其、時、都、上、の、御、陣、あり、其、後、七、代、の、信、長、公、
其、時、何、れ、を、寺、僧、居、も、裏、て、三、ヶ、路、を、も、つ、り、

八百四十四
少吉

いし申付云。又大衆問て云八百山といふ所の新開
中野いしを阿計待見せよ者八百山日本日高山と
戦ひ亂れつれて山の登りて死す者八百山といふ
方侍軍山に登り八人の首を掛け置けりその中
八面といふ也。又問云大兄は小兄は中野といふ
所謂りて老夫妻云云。とて高倉長者
家にも出ある名も長者一人の娘あり其を
ありけり村民兄殿と申ける長者は男の子又世を
是も正嫡ありて中野兄殿と申て二人ありて兄殿と
差別あり其れ故は長者の事とて大兄を唱へ實子の
小兄を唱へて後兄弟誼ひ申我を正嫡のふりて
家督しては賢我年増いれり我を家督智地
至もあふひ止りて長者も全方家録財寶
二つ小別て鬻りて弟も兄も運り住まふなり

大兄は老
未は
金は

我は新て私なり一家の園を當りて其れを
本家の園と當りての本家家督おぼす事
園とせしむべき家の園と申す事
家と申すは小大兄は實子の居る所と
小兄は中野といふ大首大兄は未は
又小兄は金はと申す事
如何老父を言ひて後置りて家も
とき河より西の山に大樹あり其れ
其れ地より上二丈ありて折る事
其堅き事石の如し其れ多く
そのありて人の如し木推し山
又願と申す事其れも幾多引
上下は遠路直上なる白髪
のどく本家の別れは雨
まこと本家の別れは雨
それより後松山城の十層

さうしてその翁を... 沖田... 南... 主... 敷... 袴... 五... 當... 川... 照...

三権川

老翁一人... 高僧... 給... 依... 流... 出... 是... 僧... 定... 風... の... 水... 岸... 山...

禪定
の
心

禪定を龍の中に住すの開山其の意を下りて禪定ありて
今中修の心是を名と説く舞化は其の心は又
禪定に依りて善法を修する人にと修り終るの
心は心は心と修る人にと修り終るの心は心
里に修りけりて河海公より修りて後の世に
ともるれを筆とて修りて修りて修りて

○梵字宇山興立記

夫羽州秋田梵字宇山開山巡觸と修りて近世
不思議の大徳出給を法を因南に弘めりて其性
剛より修りて修りて修りて修りて修りて修りて
持より修りて修りて修りて修りて修りて修りて
一に能理大衆首修其丹遠近の諸山修行者
古今未曾有の大先達其身の長く大に修りて
修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

奉
陪
修
持

能
助
修
持

豊
前
公
源
義
伊
勢
公
源
義
大
和
公
源
義

展とも修りて修りて修りて修りて修りて修りて
心死定業とて病者も加持の修りて修りて修りて
快樂するも又死三日修りて修りて修りて修りて
長断と修りて修りて修りて修りて修りて修りて
唱へて修りて修りて修りて修りて修りて修りて
大徳ありて諸國巡行せりて信州戸隠山より
數月修法ありて毎夜寅より庵外より出で日の
出を待りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて
の中此月の如く見えけりて故東國の修りて修りて
地ありて思ひて戸隠山より出でて修りて修りて
給其時隨身の道具客四人ありて豊前公源義伊
公源義伊勢公源義大和公源義と修りて修りて
何れも修りて修りて修りて修りて修りて修りて
修りて修りて修りて修りて修りて修りて修りて

開國部

金剛界大尊

五波祖堂

大徳寺
五波院
東支院

梵刹の跡を尋ねしき、礎石頭を有る、歡喜斜め、其形
草草坊を有る、其形、牌堂を有る、其形、
二三本願、其形、其形、其形、其形、
の四字、其形、其形、其形、其形、
之顯、其形、其形、其形、其形、
即一字、其形、其形、其形、其形、
け、其形、其形、其形、其形、
地、其形、其形、其形、其形、
教學堂と建、其形、其形、其形、
五波院、其形、其形、其形、其形、
當、其形、其形、其形、其形、
其十六坊中、其形、其形、其形、

本尊隆三
日洞院
皇前々酒奉
宮之房
羅三之房
因之房
極之房

本尊軍荼利
取勝院
阿波云源義
普門之房
紐之房
法林之房

本堂本尊
金剛界
大如來

祖師堂
中輪院
本尊不動明王
教學字堂

本尊金剛界
仙遊院
大和公隱海
龍三之房
岩三之房
普賢之房
標之房

本尊威徳
月松院
伊勢公源賢
角三之房
地蔵之房
眞三之房
延年之房

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

其後又狛山寺行寺建日洞院里寺を又又口村

見嶽山清岸寺建月松院の里寺とい長富村世別

堂は隆治樂師觀音と安置して阿計志丸を得脱と

獨銚山常樂寺と建て仙遊院の里寺とい連寺村

荒原山源川寺と建て寂勝院の里寺とい小荒原山

田城山蓮池院と建て桂源灌佛華水の湖加本村

その者阿計徒磨の家及び時而眼より取出る老翁

米代に其のまゝありて消えける其靈魂世年と録て

あつたなり火の中より尺の間に首ありたり

くめると是と名する罪者なり又其の首ありたり

けしと里人常山と奉じて志雲里坂のりり願ひ

願ひれ別一字と備て鷹百山自同其身寺東光

房と号し退轉る彼法節り有けり阿計徒丸怨

業障導も去りしり阿計留丸教化者と祀り

又五眼山福壽寺と建て阿計留丸教化者と祀り

又藏王権現と建て順峯修の初護摩場とい中津又

又八面山曹州空院と建て難苦行場の山宿とい

又儀鳳山瑞雲寺と建て徳野権現と節詔ありて

逆峯初七日行の護摩場とい八森

當山七日の行の間峻雲山と建て難行とい又當

山小飯宿と是了依る惣長長床とい

又凌雲山東光房と建て難苦行場とい八森

又常山山重樂寺と建て順運修の中僧養長津院

又多羅の靴は一室と建て金剛界大日如来と安置し

て有り別と空院と梅本山の寺屋の名と号し毎年

念轉るく二二五七九の四ヶ月山を下り其後大

法會と設け國土安堵の祈り遠近村里訪者結

縁り又阿計徒丸怨業得脱と祈り道場とい

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

聖山

聖山

狛山寺

見嶽山

狛山寺

荒原

田城山

五眼山

星君十年の間、寺僧房數多御建立あり、後、
舟目より七日大法會行、大祖俊俊邊、墓の
先蹤を継ぎ、一千本の率都邊、毒を六射の地藏尊
の石像を安置し、性非軍死の跡、幸阿計、徒九斤、弟
性一切衆生、百性非情、前亡後滅、皆供成佛の作善
供養あり、け、事殊勝なり、て、まき御、り、尊早感
涙を流、り、然る、其、大信、長、場、所、を、本、山、を、御、建
陽、て、東南の山中、東下の野原あり、阿仁、海、の、施、を、等、其
願、を、當、山、の、開、其、^初高倉長者、大壇那の數あり、
之、も、末、世、其、證、も、見、を、也、然、也、地、度、の、施、を、物、の、中、に、
七、者、が、末、大、方、一、門、の、類、の、多、明、其、地、を、る、と、阿、仁、海、
方、(白、御、建、立、下、され、し、申、故、實、と、言、其、人、に、
願、の、を、任、せ、よ、も、(山、邊、を、あり、し、を、其、時、に、御、
攝、待、と、立、く、參、詣、の、信、者、供、養、せ、め、之、其、處、の、字、に

攝待と云、お申、仁平元持、奉法系、源泰、少諱、り、
角の、唐、の、開、居、り、終、其、後、源、覺、源、海、二、公、に、依、り、て、相
里、の、山、に、奉、詣、華、嚴、房、を、分、終、り、而、多、作、り、終、り、我、即
心、願、の、旨、あり、依、り、地、山、久、く、這、留、と、し、二、公、に、御、
終、へ、し、と、い、れ、而、も、阿、闍、梨、形、等、世、に、先、終、住、を、と、り、
ま、り、也、^其黄泉、^と伴、り、何、の、益、あり、^山山、邊、^中中、に、^依依、り、
依、り、て、也、^何何、の、も、^未未、ま、^かか、^物物、^所所、^にに、^昔昔、^八八、^人人、^のの、^強強、^勇勇、^又又、^阿阿、^計計、^住住、
兄、弟、何、れ、る、者、あり、^皆皆、^他他、^のの、^又又、^かか、^らら、^しし、^てて、^死死、^るる、^者者、^をを、
阿、計、徒、を、務、務、の、者、あり、^取取、^りり、^早早、^くく、^死死、^すす、^るる、^者者、^をを、
本、山、を、死、^すす、^るる、^其其、^恨恨、^奈奈、^成成、^非非、^相相、^買買、^へへ、^しし、^法法、^勤勤、^修修、^をを、
障、身、あり、^がが、^法法、^境境、^をを、^法法、^表表、^へへ、^其其、^靈靈、^魂魂、^不不、^信信、^のの、^者者、^をを、
替、實、と、成、事、心、定、し、つ、つ、の、^念念、^をを、^事事、^をを、^知知、^れれ、^地地、^吉吉、^源源、^素素、
公、に、^依依、^りり、^山山、^中中、^にに、^註註、^しし、^てて、^生生、^死死、^明明、^をを、^斯斯、^をを、^しし、^今今、
年、七、十、年、歳、に、我、を、^飯飯、^山山、^にに、^其其、^行行、^方方、^のの、^知知、^也也、^とと、^いい、^今今、
六、日、七、日、由、妙、日、と、^云云、^くく、^遷遷、^化化、^のの、^日日、^にに、^定定、^而而、^後後、^早早、^にに、^飯飯、^山山、
と、^衆衆、^をを、^依依、^りり、^力力、^及及、^りり、^而而、^不不、^能能、^終終、

開山角源 二世豊前源春 三世阿波源義

四世伊勢源覺 五世大和源清 上征 奉行 義行

弟二世春行現住時奥州秀衡公より鏡二面(圓形)

五百依御金五十兩の寄附杖と法衣(常山)賜り終身其

八花形の鏡を神明の御正鉢に夜いなり圓形の鏡を

中院の護摩壇に安置し(も)を(れ)り(り) 於て法威啓

山中繁榮す(り)歷代傳(り)

理俊俊行鏡庭(高)昇威法鏡順開壽俊永

士母の現住俊永の時若川の城主常山(末)あり狩出使

僧(と)り(り)仲(り)ふ(り)弟(り)あり(り)知(り)れ(り)通(り)當(り)山(り)殺(り)生(り)禁

断(り)の(り)末(り)重(り)く(り)弟(り)の(り)右(り)へ(り)と(り)と(り)を(り)城(り)を(り)返(り)る(り)も

世(り)も(り)斷(り)れ(り)し(り)遺(り)恨(り)を(り)思(り)ひ(り)之(り)を(り)大(り)勢(り)と(り)て(り)常(り)山(り)

へ(り)也(り)也(り)二(り)世(り)三(り)十(り)年(り)を(り)折(り)破(り)彼(り)石(り)の(り)度(り)倒(り)し(り)て(り)之(り)を(り)

嘉元三年
九月廿三日
迎親

責し下都上屋(り)の(り)を(り)折(り)破(り)り(り)折(り)れ(り)し(り)程(り)又

彼(り)の(り)石(り)も(り)出(り)火(り)し(り)山中(り)の(り)騎(り)部(り)目(り)あり(り)及(り)有(り)孫(り)の(り)喧(り)嘩(り)

時(り)の(り)に(り)開(り)某(り)より(り)來(り)未(り)遠(り)迎(り)と(り)今(り)尊(り)早(り)に(り)行(り)軍(り)信

郎(り)依(り)の(り)在(り)殿(り)多(り)小(り)片(り)時(り)の(り)燈(り)し(り)回(り)祿(り)し(り)今(り)年(り)に(り)和(り)何(り)あ(り)れ

年(り)を(り)此(り)日(り)に(り)終(り)る(り)日(り)を(り)九(り)十(り)三(り)代(り)後(り)二(り)條(り)院(り)嘉(り)元(り)三(り)十(り)年(り)

九(り)月(り)廿(り)三(り)日(り)の(り)里(り)寺(り)より(り)を(り)亡(り)詰(り)事(り)り(り)を(り)詮(り)一(り)人(り)の

言(り)す(り)も(り)う(り)三(り)の(り)あ(り)や(り)を(り)を(り)主(り)居(り)り(り)け(り)る(り)是(り)を(り)開(り)山(り)

大(り)徳(り)の(り)御(り)遺(り)筆(り)を(り)了(り)せ(り)思(り)ひ(り)合(り)を(り)り(り)世(り)渡(り)を(り)あ(り)し(り)勤(り)務

急(り)慥(り)り(り)と(り)佛(り)認(り)ま(り)奉(り)り(り)た(り)思(り)ひ(り)く(り)護(り)法(り)善(り)神(り)の(り)御(り)討

ち(り)を(り)此(り)の(り)事(り)に(り)當(り)り(り)と(り)怒(り)り(り)も(り)城(り)を(り)り(り)泪(り)を(り)り(り)に(り)出(り)遣(り)す(り)事(り)

力(り)及(り)に(り)刺(り)八(り)方(り)に(り)着(り)て(り)居(り)置(り)す(り)後(り)ま(り)の(り)通(り)路(り)を(り)断(り)り(り)

眼(り)前(り)の(り)飢(り)渴(り)山中(り)の(り)道(り)俗(り)を(り)さ(り)や(り)り(り)あ(り)く(り)大(り)衆(り)夜(り)中(り)に

を(り)出(り)し(り)小(り)又(り)口(り)を(り)封(り)じ(り)山(り)上(り)小(り)壇(り)に(り)築(り)て(り)怨(り)敵(り)咒(り)明(り)の

護(り)摩(り)を(り)修(り)し(り)鏡(り)御(り)の(り)袖(り)を(り)湯(り)に(り)洗(り)ひ(り)南(り)無(り)禮(り)を(り)念(り)ず(り)鐘(り)聲(り)

の(り)諸(り)尊(り)聖(り)衆(り)口(り)今(り)一(り)山(り)忽(り)と(り)破(り)れ(り)大(り)衆(り)如(り)上(り)に(り)呼(り)ぶ(り)

急(り)き(り)怨(り)敵(り)を(り)降(り)伏(り)す(り)河(り)を(り)再(り)興(り)上(り)之(り)の(り)聚(り)會(り)を(り)挽

明徳四年

護^レ終^レ大音多^ク法多^ク哀れ^クなり^シ也^ト泣^ク後永
先達^ノ小^ノ賜^ノ之^ノ拜^シ法^ノ螺^ノ吹^ク之^ノ音^ノ八^ノ音^ノ
別^レけ^テ後^ニ先^ニ達^ニも^シ法^ノ系^ト首^ニ抄^テ源^リ親^シ
王^ノ及^リけ^テ是^レ始^ニ焦^リと^テあり^シ村^ノ民^ノは^シ河^ノ川^ノ
少^ク庵^ニ修^メ若^ク時^ノも^テあり^シと^テ法^ノ系^ト守^テ護^レ下^ニ形^ト
俗^ノツ^テ新^ニと^テ撰^テ法^ノ世^トは^シそ^ノ年^ノ月^ノは^シ終^ルる^ニあり^シ
嶽^ノ觀^ニ觀^ニ壽^ノ觀^ニ海^ノ十七^ノ世^ノ觀^ニ法^ノ時^ノあり^シ
所^ノ僧^ノ形^トを^テあ^ラし^メけ^レり^シ
嶽^ノ全^ク貫^テ道^ノ賢^ノ榮^ニ圓^ノ慶^ノ鑑^ニ歩^ノ大^ノ澄^ノ
二十^ノ二^ノ世^ノ大^ノ澄^ノの^ノ時^ノより^テ漸^ク船^ノ榮^ノの^ノ氣^ノ色^ノ
見^エけ^レれ^バ時^ノの^ノ法^ノ幢^トと^テあり^シる^ニ衆^ノ生^ノ縁^ト
と^テ多^ク之^ノ羅^ノの^ノ堆^トは^シ寺^ノ法^ノを^テ建^テて^テ待^テし^本山^ノ
と^テ羅^ノと^テ明^ノ徳^ノ四^ノ醜^ノ幸^ノ多^ク之^ノ羅^ノ堆^トは^シ二^ノ字^ノと^テ
建^テ云^フ金^ノ剛^ノ東^ノ大^ノ日^ノ衆^ノを^テ安^ラ置^クこ^ノ然^レバ^ハ勤^ノ徳^ノ

東光院
大日山大
東光院

功^ノ力^ノは^シ依^テ阿^ノ計^ノ徒^ノが^ノ靈^ノ魂^ノも^テ得^テ脱^クけ^レる^ニ也^ト奉^テ之^ノと^テ
障^ノ身^ノも^テ絶^レぬ^レ神^ノと^テ奉^テふ^レし^本道^ノ如^ク筆^ノの^ノ御^ノ賜^ノは^シ
神^ノ祠^ノ並^ニ鬼^ノ頭^ノ權^ノ現^トと^テ常^ニし^寺跡^ノは^シ一^ノ字^ノと^テ建^テ
大^ノ日^ノ山^ノと^テ號^ス大^ノ徳^ノ幸^ノと^テ五^ノ院^ノ橋^ノを^テ故^ノ中^ノ轉^ノ院^ノ
教^ノ興^ノの^ノ幸^ノの^ノ名^ノ号^ノと^テ轉^シて^テ教^ノ要^ノ法^トと^テ号^シ居^ノ号^トと^テ
東^ノ光^ノ坊^トと^テ号^シ連^ノ中^ノの^ノ五^ノ房^トと^テ建^テし^南之^ノ坊^ト奥^ノ之^ノ坊^ト
法^ノ林^ノ坊^トと^テ号^シと^テ名^ノ号^ノ本^ノ法^ノと^テ不^レ部^ノ明^ノ王^ノと^テ安^ラ置^クる^ニ
四^ノ院^ノの^ノ代^リは^シ少^ク折^ノ目^トと^テ一^ノ院^ト二^ノ院^ト三^ノ院^ト四^ノ院^トと^テ名^ノ付^ク
一^ノ院^ノ明^ノ王^ノ勸^ノ請^ノし^りる^ニ善^ノ提^ノ故^ト東^ノ本^ノ堂^ノ中^ノと^テ奥^ノ
院^ノと^テ多^クの^ノ善^ノ提^ノ故^ト西^ノ本^ノ律^ノ者^ノ大^ノ将^ノ軍^ノ田^ノ村^ノ林^ノを^テ奉^テ
幣^ノの^ノ跡^ノ跡^ノ三^ノ所^ノの^ノ神^ノ殿^トと^テ建^テて^南之^ノ牛^ノ頭^ノ堂^ト
の^ノ宮^トと^テ建^テ西^ノ下^ノ一^ノ字^ノと^テ建^テし^前寺^トと^テ号^シ五^ノ院^トと^テ建^テ
冬^ノ詣^ノの^ノ宿^ノ堂^トと^テ四^ノ院^ノ下^ノ門^トと^テ建^テ又^テ本^ノ院^ノの^ノ後^ノの^ノ
堆^ノは^シ神^ノ明^ノ稻^ノ高^ノ辨^ノ射^ノ天^ノ女^ノ三^ノ社^ト一^ノ棟^トと^テ建^テる^ニ東^ノ房^ト

神宮の船
弁天
堂

天年

御史長

大日山

者ありけりその歴代の墓を尋ねて尋りてける所なりけり
 天社の社有りて里に假院
 ありて七ヶ年が間に本堂本院と造りて
 遷宮の式を営みて佛供養の儀を
 山中の諸尊皆道場を觀詣りて
 寛考、二十七世寛考の時、春夏秋三季
 居住し、冬に天邪林の假院に住居せり
 廿八世、卷考の時、心願ありて御史比良より西に遷
 ありて、その地を移りて天徳を行けり
 の山嶺にて四季勤行の時、諸尊皆の本尊壇を
 假院と築て人足と降りし
 廿九世、卷考の時、林崎村並物氏子の願ひに依りて
 大日山といふ本堂を造りて造営し、天社の社内に引移り
 住居せり、其時、石像等といふ社内に後なる、春藏

應永七
 佐五八
 後田長
 長子駒

甲世春藏の時、三人を要すと尋りて座像と尊躰とを
 應永長九郎やしの寸せり、一門の鎮守、少室の
 鎮守、二躰と、佐五八郎の寸せり、二像とい
 鎮守、少室の九像といふ古主、後田長子駒とい
 菩提の爲といふ十尊と造りて、是よりある年、なかり
 日夜念轉りて、信考に、その後、往者大徳
 誓ひありしと、三躰とも、東向に安置せり云々

維時元和丁卯四月吉日

大體寺東光房甲一世現住見藏 五十五歳

古本補破壞證會改書書畢

梵字字山開基ヨリ今奉迄四百八十四年

代筆薩州密乘沙門亮全

寛政四年三月十日

華藏院智圓謹言





